◆ばんどう文芸◆

短歌

今井　清　選

亡き姉に手を合わせ行く花の下姪孫に逢い面影しのぶ　辺田　石川　幸仁

ザクザクとキャベツ切る音届けんと墓に向く窓背伸びして開く　駒跿　内海　妙子

初恋の人逝きにけり抱擁の夢見んと墓に白百合献花　長須　齊木まつい

息耐えてまぶしく光る黄金虫ビンへ保存は昭和二十二年　みむら山　倉持　一枝

五月末氷彫刻する人ら解けると闘い痛ましと見ぬ　栗原ヤヱ子

野良猫の親子我が家の客となり親子の情愛見せつけられる　長谷　荒井　勝

広辞苑重く感じる今となり情けないけどページをめくる　菅谷　根芝　貞夫

掃除機に追い立てられて椅子を立つ身の置きどころなく庭の草ひく　岩井　臺　登美男

「白鳥の湖」聞けば想い出す昔むかしの我が学び舎を　辺田　石川　幸子

手間暇をかけて育てた夏野菜撓に実り待ちし友らへ　長谷　滝本　和子

久々に姉妹揃いてお茶をする何時しか孫の自慢話に　小山　荒川きみ子

明日には雨が上がると願う夜昔はてるてる坊主下げたり　生子　木村　政明

妻が植えたみかんの花が咲き満つり収穫前にほころぶ笑顔　長谷　後藤　守

満載の旅の広告手にとりて訪ねし此処の思い出甦(かえ)る　沓掛　木村　愛子

グレーという名前の猫は日によって濃度を変えるような気がする　長須　藤井　由佳

【評】一首目、桜の花道で亡くなった姉に似ている姪の孫に逢い感動している。二首目、寺の境内に自宅があることを理解すると味のある歌。三首目、老人の甘い歌。笑いを誘うようだが、作者には真剣そのものだろう。最後の歌、「グレー色」は白と黒の中間で曖昧な色。光りによって濃度が異なる。面白いところに気付いた歌。

短歌の作品を募集します！

皆さんからの短歌を広く募集します。投稿される方は、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、**掲載希望月の前月20日までに届くように**選者宛にお送りください。なお、俳句につきましては、当面の間お休みさせていただきます。

選者　今井　清　〒306－0604　幸田新田435　☎0297(35)2864